

## 第5節 調査研究の推進

### ①環境技術の振興

#### ■試験研究体制の整備

公害監視センターにおいて、検査・分析の精度の維持向上を図るため、機器の導入、更新を行うとともに、新たな化学物質のモニタリング体制の充実を図った。

農林技術センターにおいて、農林・生物系の実用技術を核とした試験研究機能の総合的展開及び普及指導機能との連携強化を図るための施設改修整備基本設計を行った。

#### ■研究開発の推進

公害監視センターにおいて、光化学オキシダントによる植物影響や合成酸性雨による炭酸カルシウムの溶出実験等を行うとともに、大阪湾の富栄養化や化学物質、農薬及び鉄道騒音等に関する調査研究を行った。

産業技術総合研究所において、プラスチックや繊維の産業廃棄物の再利用技術の開発とともに、炉やバーナーの燃焼効率を高めNOx排出量を低減する低NOx化技術の研究を進め、また、超微細構造のセラミックスを開発し、大気や水の浄化装置へ応用する技術の開発研究を行う等、環境汚染の防止、廃棄物の減少、浄化技術といった分野の研究を推進した。

農林技術センター、水産試験場や淡水魚試験場において、農林水産業に関する総合的試験研究を行い、生産性向上及び経営の近代化促進に努めるとともに、自然環境との関わりについての府民の関心の高まりを受け、環境保全型農業生産技術や、自然環境の保全と緑創出技術、水域環境の向上を図るための水産資源生存環境及び生態等に関する調査研究等を実施した。

府立大学において、総合的・学際的視野から有害排出物の低減を目指した燃焼技術、ゴルフ場農薬の微生物分解、光合成生物による大気炭酸ガスの低減化等、幅広く環境に関する研究を行った。

#### ■成果の普及

産業技術総合研究所において、脱フロンに関する知識と経験を有する者を技術アドバイザーとして登録し、府内の中小企業の要請に応じて派遣し、技術指導を行い、技術向上を図った。

### ②調査研究の推進（中長期的な研究課題例）

#### ■環境の保全と創造に関する実証研究

産業廃棄物の最終処分場（堺第7-3区）において、土質改良方策を土地利用形態別に調査し、長期的な視点に立脚した土壌浄化技術の可能性について検討した。